

第5学年外国語活動学習指導案

学校名： 玉城町立田丸小学校

教科等	外国語活動	
学年	5年生	
単元名	Lesson 9 What would you like? 「ランチメニューを作ろう」(Hi, friends!1)	
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欲しいものについて丁寧に積極的に尋ねたり答えたりしようとする。 ・ 欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。 ・ 世界の料理に興味をもち、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気付く。 	
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手意識をもって、丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり答えたりしている。 ・ 世界には様々な料理があることや、英語にも場に応じて丁寧な言い方があることに気付いている。 	
指導計画 (全4時間)	第1時	What would you like? と～,please.の表現や、単元で使う単語を学習する。
	第2時	レゴブロックを使っていろいろなメニューを作り、ビュッフェ体験の準備をする。
	第3時 (本時)	What would you like? と～,please.を使ってレゴブロックで作ったものでビュッフェ体験を行う。
	第4時	世界の料理を知り単元で習った表現を復習する。
児童について	<p>外国語活動は、4年生の時から行っており、週1時間程度、意欲的に活動に取り組んできた。特に、初めてのフォニックスでは、DVDを活用し、フォニックスアルファベットの歌やアルファベット体操などを行い、子どもたちは歌や動きを通して楽しみながら覚えていた。</p> <p>5年生となり、発音に気をつけて英語を聞き取ったり、話したりする活動を取り入れ、最初は発音に自信がなく、なかなか大きな声で話せない子も見られたが、グループやペアで活動することで、意欲的に話そうとする姿も多く見られるようになってきた。</p> <p>また、日常会話の中で黒板消しを eraser と言ったり、「先生、理科は science やんなあ。」と尋ねたり、今まで知らなかった単語や、新しいフレーズを知ることを楽しんでいると感じ、それらを使おうとする場面も増えてきた。教室内の英語の掲示物も子どもたちが進んで作ってくれている。</p> <p>英語に興味や関心があるものの会話を行う場面にな</p>	

	<p>ると、英語での会話経験のある子とそうでない子との差があり、みんなが同じように積極的に会話を楽しむことが難しかったが、レゴブロックを使った活動では、子どもたちは、どの子も自分が作ったものを英語で楽しそうに紹介する場面が見られ、「これは英語で何て言うの？」と ALT に尋ねる姿が多く見られるようになった。子どもたちはレゴブロックを使った活動が大好きで、想像力と創造力を生かしながら意欲的に取り組んでいる。</p>
指導について	<p>5年生では、発音をしっかりと身につけさせたいというねらいを持って、4月からフォニックスに取り組んでいる。「聞く」「話す」活動を中心として、英語に慣れ親しませるため、フォニックスの DVD などの教材を活用し、アルファベットにはアルファベットの名前読みと音読みがあることを学習するとともに、発音を意識することができるよう、ALT の口の形を見ることなどを促してきた。また、文字と音を結びつけさせるために、短母音を含む3文字の単語のカルタゲーム等ゲーム的要素を取り入れ、子どもたちが楽しみながらフォニックスの学習ができるよう指導を工夫している。</p> <p>話す活動では、ALT の発音をよく聞き、できるだけその音に近づけて発音するよう伝えながら、グループやペアでの活動を通して、会話をする機会を多く取り入れ、会話に慣れ親しませるよう取り組んできた。</p> <p>レゴブロックを使った活動では、ペアになり、What do you like? の質問に対し、Red・Circle・Fruit などの3ヒントで答えさせ、それらから連想されるものを作らせ紹介させた。レゴブロックをコミュニケーションツールとすることで、自分や友だちが作ったものを通して、「作ったものを紹介したい」「これが何なのかを知りたい」などといった意識が生まれた。授業では、子どもたちが言いたいことが言えるように、子どもたちが使いたい表現や言葉については、“Hi, friends! 1” で既習の表現を復習したり、県教育委員会作成の「Joy Joy MI English」を活用したりして語彙等を増やしてきた。</p> <p>本単元では、コミュニケーション活動としてレゴブロックを活用し、What would you like? と～, please. の表現を使い、ホテルのビュッフェでのレストランスタッフとお客のやりとりの場面を設定した。</p> <p>本時では、前時にグループごとにレゴブロックで作成した食べ物（「スシ」「デザート」「洋食」「和食」「フルーツ」「アイスクリーム」）を使って、お客とレストランスタッフで会話を行う。</p> <p>お客は、目の前に並んでいる食べ物について質問しながら、自分の好きなものを選びオリジナルランチを完成させる。また、レストランスタッフは、自分が作ったものについてお客とやりとりしながら、その食べ物を選んでもらえるように既習の表現等を使って説明をする。</p> <p>お客とレストランスタッフということから、状況を考え丁寧な尋ね方や、答え方があるということに気付かせ</p>

	<p>活動させたい。そして、体験を行う中で、What would you like?と～,please.以外にも既習の表現やジェスチャーなどを使い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、活動の前にはどのような表現等が使えるかなどを確認しながら授業を進めたい。</p>
--	---

【本時の指導について】

本時の目標	What would you like? と～,please.やこれまでに習った表現を使ってビュッフェの場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
準備物	フォニックス DVD、レゴブロック、ワークシート
<指導過程>	
学習活動	教師の支援・留意点
<p>1 フォニックスの練習をする。</p> <p>2 フォニックスカルタゲームをする。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で練習するよう伝える。 発声しながらアルファベットの大文字を ALT と一緒に空書きさせる。 既習の 5 つ tin, win, fin, bin, pin に dog, log の 2 つを加え ALT の発音を注意深く聞かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><めあて> What would you like? ～,please.を使って、英語で会話をしながらオリジナルのランチを作ろう。</p> </div>	
<p>4 単語を練習する</p> <p>5 活動で使う会話文を練習する。</p> <p>A: Welcome! / Hello. What would you like? B: What's this? A: It's a pizza. B: Oh! I like pizza. Pizza, please. A: How about tabasco? B: Yes, please. (No, thank you.) A: Here you are. B: Thank you. A/B: Bye.</p>	<ul style="list-style-type: none"> この後の会話で、必要となってくる英単語を、フラッシュカード形式で確認させ、発音練習させる。 必要に応じて「Joy Joy MIEnglish」の単語カードを使う。 ピザなど英語が日本語となっている単語は英語らしく発音させる。 HRT と ALT で見本となる会話を行い、活動で使うやり取りを確認させる。 ALT の発音をよく聞き、できるだけ ALT の発音に近づけて発音するように伝える。 What would you like? ～,please.以外にも既習の表現を使って質問させたり、答えさせたりする。 レストランスタッフになったときは、How about～?を使い、自分の作った食べ物にオプションを付けるやり取りも行わせる。 決められた会話の形式にこだわるのではなく、自分が聞きたいと思ったことや、感じたことを英語で表現してもよいことを伝える。 <p>What's this? It's a ~.</p>

<p>6 ビュッフェ体験を行う。 (前半8分)</p> <p>役割を交代する (後半8分)</p> <p>7 自分のランチを紹介する。</p> <p>This is my lunch. This is ~,~,and~.</p> <p>8 学習の振り返りを行う。</p> <p><まとめ></p>	<p>I like ~. Thank you. など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て会話させ、立場も考えながら丁寧にやり取りできるよう声掛けする。 ・グループでAとBの会話を練習させる。 ・それぞれ「スシ」「デザート」「洋食」「和食」「フルーツ」「アイスクリーム」の6つのコーナーに分かれて準備させる。 ・「お客」と「レストランスタッフ」に分かれ一人3品をチョイスすることを伝える。 ・それぞれ積極的にコミュニケーションを図るよう伝える。 ・HRTやALTも参加し、積極的に会話を行う。 ・HRTが自分のランチを紹介する見本を行い、ボランティアで何人かに紹介させる。 ・グループで、自分のランチを紹介し合う。 ・今日の学習で学んだことをふりかえり、ワークシートにまとめさせる。
<p>【予想される児童の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What would you like?を使って、お客さんに丁寧に尋ねることができた。相手を見て話したり、丁寧に聞いたりすることで、レストランスタッフの気持ちが分かった。 ・自分の作った物をWhat's this?ときかれ、It's a ~.を使って説明できた。説明が通じて、選んでもらえた時はうれしかった。 ・How about~?でオプションを付けたら、お客さんが喜んでくれて、本当のやりとりみたいでおもしろかった。 ・I like ~.やThank you.など、今までに習った英語をたくさん使うことができた。 	
<p><成果と課題></p>	
<p>今回、What would you like? ~,please.を使ってレストランでのやり取りを行った。お客とレストランスタッフということから、状況を考え丁寧な尋ね方や、答え方があるということに気付かせながら活動させ、英語にも改まった表現があることに気付かせたかった。子どもたちの感想の中には、「いつもの買い物をする時の店員さんのように丁寧に話すこ</p>	

とができた。英語でやってみて楽しかった。買い物をするときは、お客様の目をちゃんと見てすることが大事だということがわかりました。」
「英語でお店の人と会話ができ楽しかった。始めたころはあやふやだったけどやっていくうちになれました。」「なるべく英語を使うように意識していたらいつのまにか英語が言えるようになった。What would you like?などの言い方を覚えることができた。」などが挙げられた。実際にやり取りをすることで、「会話」を大切にしながら表現できた子や、体験を通して、英語の楽しさに触れながら英語を身につけていくことができた子の姿が見られた。

しかし、発音について課題が見られた。会話の中で、ピザなど英語が日本語となっている単語を英語らしく発音することができなかった。「Joy Joy MIEnglish」を活用し、語彙を増やししながら、フォニックスの練習を継続し、英語の発音を意識させていきたい。また、知らない単語であっても「音読み」をつなげていって英単語を読むことができるように指導していきたい。

レゴブロックを使っての活動では、「自分の作った物を説明したい。」
「目の前にあるものがなんなのかを知りたい。」といった意識が生まれ、活動では、次々に英文や英単語を習得する子どもたちの姿が見られた。また、ふり返りの中には、「自分で作った物にオプションを付けたりして楽しかった。外国に行ったみたいでおもしろかった。」とあり、自分が作った物にひと手間付け加えることで、さらに表現したいという意欲の広がりが見られた。楽しみながら、「自分の思い」を形にし、生き生きと活動することができた。

レゴブロックで制作していく中で、夢中になり時間がかかってしまうことや、たくさんの物を表現させる際の、ブロックやプレートの数が足りない等課題も見られる。作った物を有効的に活用し、効果的に授業ができるよう指導計画を立て、充実した指導を展開していきたい。